



エアバッグジャケット
誕生から20年



2020



20th Anniversary

着用するエアバッグ



hit-airはエアバッグ式プロテクターの様々なテストを実施し、安全性を追求しています。



安全性を評価され白バイ隊、フランス憲兵隊、中国の警察など様々な国や地域で採用されています。



JAPAN
PROTECTION
TECHNOLOGY

HIT-AIR
AIRBAG
SYSTEM

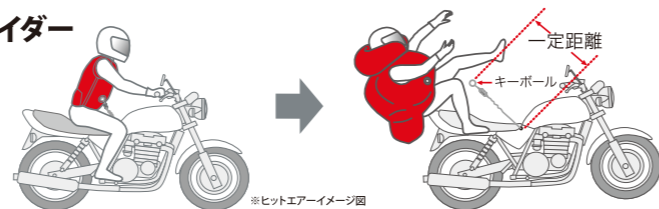


hit-air airbag jacket/system

Shock Buffering Protection System 衝撃緩和保護システム

ウェアなどに内蔵されたエアバッグが転倒・追突などによってライダーがバイクから《一定の距離》離れた瞬間にキーボールが抜けキーボックスが作動しエアバッグが展開します。

キーボックスが作動すると、カートリッジボンベより炭酸ガス(CO2)が首、背中、胸、尻などのエアバッグ気室に送り込まれ、人体への衝撃を緩和します。



hit-airエアバッグは、上衣として着用下さい。

エアバッグはバイクと伸縮ワイヤーで接着して使用します、必ず上着として使用ください。伸縮ワイヤーは予めバイクの所定の位置に長さを調節して取付けます。

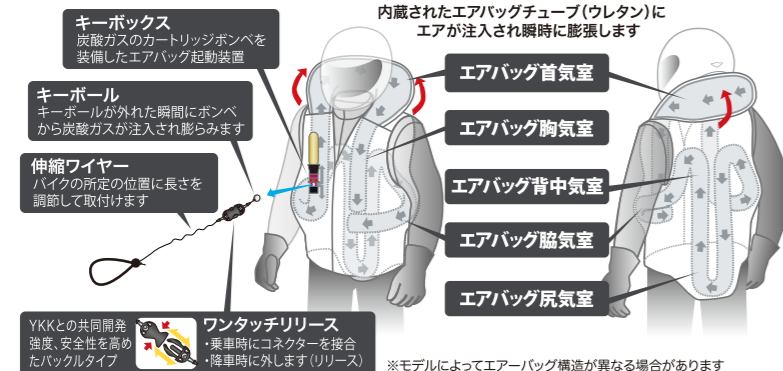


走り出す前にワンタッチリリースを
接合!

走行前にワンタッチリリースをシートベルト感覚で接合します、接合はバイクに股がった状態で行ってください。



エアバッグ基本構造



エアバッグが展開しても繰り返し使用できます。

エアバッグ展開後にジャケットに損傷が無ければ、CO2カートリッジボンベを交換して、繰り返し使用する事ができます。
※一度作動したカートリッジボンベは使用できません。
空ボンベは底に穴が開いています。
※ヒットエアジャケットにはマニュアル、再生用工具ツールが付属されています。

伸縮ワイヤーにワンタッチコネクターを付けたまま降車した時は…

キーボールが抜けるには約20~35kgの張力が必要のため、通常の降車での張力では簡単に抜ける事はありませんのでワンタッチコネクターの外し忘れに気付きませ。



※立ちゴケの際は30kg以上の張力がかかる場合があります、展開する場合がありますのでご注意ください。

hit-airの安全性を検証

安全性を実証する確かなデータ

エアバッグジャケットに対する打撃試験 (JARI 2011年3月)



センサーを内蔵した人体模型にエアバッグジャケットを着用、インパクト(打撃計測機)で頸部の打撃試験を実施しました。本試験で得られた結果を米国法規であるFMVSS 208に定められた傷害値で評価し、本試験結果をみると傷害値を十分にクリアしている状況であったことがわかりました。

エアバッグジャケットの展開時間試験 (JARI 2011年3月)



エアバッグが展開するまでに要する時間は最も短いもので105msec(0.105秒)、最も長いものでは205msec(0.205秒)でした。(単位:msec/1000分の1秒)

エアバッグジャケットの性能・効果試験 (JARI 2008年10月)



エアバッグジャケット装着と非装着の人体模型を背面から落下させ、胴体への加速度の違いを測定しました。実験は人体模型を衝突台へ落下させ、落ちた衝撃を加速度センサーで測定、G値が小さいほど衝撃が緩和されます。
数々の試験により、hit-air装着時における衝撃の緩和を実証。

エアバッグ展開時間をスピードアップ!



S-SYSTEM

Sシステムは、キーボックス(エアバッグ起動装置)に改良を重ね、エアバッグ作動から膨張までの展開時間を短縮し、瞬時に展開します。

展開時間 約0.1~0.2秒

*展開時間はモデル(エアバッグ構造)によって異なります。
*Sシステムは2009年から導入しています。

世界に認められた技術と性能、"Japan Protection Technology"の安全と信頼を世界へ…

hit-airエアバッグシステムの安全性と信頼性が評価され日本の白バイ隊をはじめ、フランス憲兵隊やスペイン、トルコ、中国の警察など様々な国や地域で採用されています。
hit-airエアバッグジャケットは現在40カ国以上で販売されています。

